

公 民 [倫 理] (100 点 50 分)

2024 年 6 月 6 日 (木) 3 限 実施

第 1 回 考 査

千葉県立佐倉高等学校 第 3 学年 選択者

Edited by K.Kataoka

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 解答用紙はマークシート式です。
- 3 受験番号はアルファベットを数字に直し、次の例のように 5 桁で記入してマークを忘れないこと。
例 3 年 D 組 1 番 → 30401
- 4 問題中の【CG】は「知識・技能」を、【SHH】は「思考・判断・表現」を評価することを示している。
- 5 試験中に解答用紙の不足、問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 6 試験終了後、問題冊子は持ち帰って復習をするとともに、答案返却の際に持参すること。

倫 理

(解答番号 [1] ～ [50])

第 1 問 資料 1 を見ている高校生 A と B が交わした次の会話を読み、後の問いに答えよ。(配点 20)



資料 1

A：この絵はギリシャ神話に関する作品のテーマが描かれているそうだけど、何の作品かな？

B：ホメロスかヘシオドスかのどちらかだろうけど、戦争の様子が描かれているようだね。

A：ホメロスの作品中の戦争なら [1] 戦争だろうね。

B：ヘシオドスの『[2]』ではないかな？ この作品の中にも、カオス、エロスの誕生の後に、母神ガイアから生まれた男神たちの間に 3 度くりかえされる権力争奪が描かれているよ。

A：いや、絵をよく見ると、戦車に引きずられている人がいるのが見えるよ。このエピソードはホメロスの『イリアス』だね。

B：なるほど、それでは戦車の上で勝ち誇っているのは [3] というわけか。

問 1 文章中の空欄 [1] ～ [3] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。【CG】

- [1]

① ペロポネソス	② トロイア
③ ペルシャ	④ カイロネイア

- [2]

① オデュッセイア	② 神統記
③ オイディプス	④ 仕事と日々

- [3]

① アキレウス	② ヘクトル
③ パトロクロス	④ パリス

問2 自然哲学についての記述を読み、文中の空欄 [4] ～ [5] に入る語として最も適当なものを、次の①～④のうちからそれぞれ一つ選べ。【CG】

古代ギリシアにおいて、タレスに始まる自然哲学者たちは、宇宙の構成元素についてさまざまな学説を提出し、それらは、[4] の四大元素説へとまとめられた。自然は全体として有機的・生命的なものとして把握され、目的論的な見方によって統一的に理解された。アリストテレスによって完成されたこうした自然哲学においては、天動説が採用され、地球は宇宙の中心にあるとされた。あらゆる自然物は、その本性を実現する過程にあるとされ、生物にとっては親になること、煙にとっては上方へ移動すること、水にとっては下方へ移動することがその本性の実現であるとされた。このような自然哲学は、アリストテレスの学説がイスラム世界や中世ヨーロッパ世界に伝えられ、そこで広く受容されたため、それらの地域でも近代科学以前の支配的自然哲学となった。古代ギリシアには、[5] を説く機械論的な自然哲学も存在したが、それは無神論であり、宗教を否定するものであるとみなされ、一般には広がらなかった。

- [4]

① 土、水、火、天	② 土、水、火、山
③ 土、水、空気、天	④ 土、水、空気、火

- [5] ① 多元論 ② 観念論 ③ 原子論 ④ 合理論

問3 次の文中の空欄 [6] に入る最も適当な文を下の①～④のうちから一つ選ぶとともに、文中の(A) (B)に該当する哲学者の組み合わせとして最も適当なものを下の①～④のうちから一つ選べ。[7] 【SHH】

パルメニデスは、これまでの哲学者のように存在を感覚において現象するものとして把握するのをやめ、[6] ことを明らかにした。これこそが存在の真実性であり、感覚的現象は虚像にすぎない。ここに、感覚に現象する生成・消滅する事物の「成り立ち」としての「自然」を求めた最初の哲学者たち、すなわち自然学者（フィシオロゴイ *physiologoi*）とよばれる人々の思索は頓挫し、哲学は新たな端緒を求める。

パルメニデス以後、ギリシアの哲学は、(A)パルメニデスの論理を追究し、運動の存在を否定した弁証論者、(B)パルメニデスに従い、根元存在の不変性を認めたうえで、これを多元化することによって、その相互関係の変化によって自然世界の多様性を救おうとした多元論者、(C)自然学の伝統とは関係なく、ことばの機能を説得（魂の誘導）に置く弁論術の伝統に基づき、すべてのことばを人間存在に関係づけて理解し用いたソフィストの3派に分かれ、低迷を続けた。

- [6] ①感覚的な現象の原因は対立するさまざまな事物の背後の火である
②感覚的な現象の原因は絶えず生成・消滅し続ける自然の本性である
③感覚的な現象の背後には太陽に例えられる真実の存在が厳然と存在している
④感覚的な現象の背後にその根拠として不変不動な存在が理性に対して示現している

- [7] ①(A) ゴルギアス (B) アナクシメネス
②(A) ゴルギアス (B) エンペドクレス
③(A) ゼノン (B) アナクシメネス
④(A) ゼノン (B) エンペドクレス

問4 デモクリトスの思想に関する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[8] 【SHH】

- ① 万物のもとのものは不生・不滅・不変の分割できないものである。これは数において無限であるが、形態と位置によって互いに異なっていて、空虚（空間）のなかを運動しており、その離合集散によって万物が生成したり消滅したりする。
- ② 飛んでいる矢は、今という瞬間には一定地点にあり、次の瞬間にも次の一定地点にある。こうして飛矢は各瞬間には静止しており、静止を積み重ねても運動は出てこない。
- ③ 万物のもとのものを不生不滅の四つの元素と考え、それが「愛」と「憎」によって結合したり分離したりして、世界のいろいろな状態が現出する。
- ④ 万物のもとのものはそれぞれ性質が異なる種子（スペルマタ）であって、あらゆるものはこの全種類の種子を含むが、どの種子をもっとも多く含むかによって、そのものの何であるかが決まってくる

問5 ピュタゴラス派に関する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[9] 【SHH】

- ① 人間がその本来的自己を現実世界においては非本来的なもの（身体、国家、宇宙、とりわけ人間の運命を支配する星辰）によって疎外されているという反宇宙的二元論の立場から、宇宙を超える至高神と人間の本来的自己との本質的同一性の「認識」（グノーシス）を救済とみなす。
- ② 魂は元来、不死すなわち神的な存在であるが、無知ゆえにみずからを汚し、その罪をつぐなうために肉体という墓に埋葬されている。われわれが生と呼んでいる地上の生活は、実は魂の死にほかならず、その死から復活し、再び神的本性を回復することが人生の目的である。
- ③ 世界は可視的物質界と三つの不可視なる原理的な力よりなる。それは魂、つまり生命力と、叡智、つまり宇宙秩序の認識機能と、一者、つまりあらゆる対立を統合する絶対者である。一者は「第一なるもの」または「善」と呼ばれ、それ自体はまったく単純なものでありながら、その中にありとあらゆる多様性を潜在的に含んでいる。
- ④ すべては同一の本質をもち全体を反映している。とくに人間は小宇宙（ミクロコスモス）であって大宇宙（マクロコスモス）と照応し合い、同じ法則にもとづいてつくられている。大宇宙は小宇宙を含むが、さらにその大宇宙を包み込むのが光（フォス）の世界であり、これらすべての上に神（テオス）が存在する。

問6 次の記述中の空欄 [10] に入る自然哲学者名として、最も適当なものを、下の①～④のうちから一つずつ選べ。【SHH】

[10] は次のような断片を残している。「それが食い違いながら、自分自身とどうして一致するのかを彼らは知らない。そこには弓とリュラ琴のそれのように、逆に向き合った調和がある。」これは、対立物の調和の弁証法を示していると思われる。弓は弦と逆方向に引っ張り合い、矢を放つ時には逆向きの力が調和して矢を正しい方向に飛ばす。リュラという楽器も弦の復元力と指の力で音を奏でる。

[10] ①アナクシマン드로ス ②パルメニデス ③タレス ④ヘラクレイトス

第2問 次の文章を読み、下の問いに答えよ。(配点 20)

ペルシャ戦争で大軍をしりぞけたギリシャでは、前5世紀からアテネが政治・経済の中心地となり、文化・芸術が繁栄した。イオニアやイタリアでおこなわれた自然や宇宙についての探究は、社会や人間をめぐる活発な議論に移る。中心的な役割を担ったのは、ギリシャ各地をめぐりながら授業料をとって教育をおこなう専門知識人ソフィスト(ソピステース)であった。民主政のもと、市民たちが能力を磨いて政治や社会で活躍するようになったアテネでは、プロタゴラスやゴルギアスを代表とするソフィストが「[11]の教師」として市民教育をおこなうと宣言し、講演などをおこなって人気を博した。ソフィストたちと一緒に議論した知識人の中に、アテネ出身のソクラテスもいた。

プロタゴラスは「人間は万物の尺度である」と語り、それまで神が尺度とされた伝統的な絶対的価値基準から人間を解放し、**A**を生み出した。ソフィストたちは、規範や価値がそれぞれの社会の[12]によって成立すると考えた。

ソクラテスはソフィストとは異なり、人々に何かを教えるのではなく、アテネの街角で会う人たちと[13]を交わすことで、哲学を遂行した。ソクラテスはあるとき、「ソクラテスより知恵ある者はいない」というデルフォイのアポロン神託を受けた。自身では善や美や正義など大切なことは知らないと思っていたソクラテスは、神託を謎として受けとめ、世間で知者と見なされる人々と対話をはじめた。そして、彼らもやはり大切なことを知らない(不知)にもかかわらず、専門的な知恵への自負ゆえに「知っている」と思いこんで無知の状態にあることに気づき、知らないことを率直に認める不知の自覚を促した。

問1 文章中の空欄[11]～[13]に入る最も適当な語句を、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。【CG】

[11] ① アレテー ② ログス ③ アルケー ④ フィロソフィア

[12] ① コスモス ② ノモス ③ ピュシス ④ パトス

[13] ① レトリケー ② モノロゴス ③ ディアロゴス ④ ウラノス

問2 文中の**A**について、その語を説明する記述として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[14] 【CG】

- ① 複数の視点や価値観の併立・共存を認める立場
- ② 統一された視点や価値観から何ごとかを主張する立場
- ③ 社会ごとに異なる可変的真理を承認する立場
- ④ 人間一人ひとりの判断が真偽の基準となるという立場

問3 真の知識に対し、当人にそう思われているにすぎないことや、臆見、思いなしをあらわす語として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[15] 【CG】

① エピステーメー ② リゾーム ③ アポリア ④ ドクサ

問4 プラトンの対話篇『ゴルギアス』に登場するカリクレスは、次のような議論を展開している。それを踏まえたうえで、カリクレス的な立場に合致する記述として最も適切なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[16]【SHH】(2001年追試験)

世の中の大多数の弱者(能力の劣った者)は、強者(能力の優れた者)から自分たちの利益を守るために、他者より多く所有することは不正である、という平等主義的な法律や慣習を作り出した。しかし、弱肉強食の動物の世界を見ればわかるように、強者が弱者を支配し、より多く所有するのが、自然本来のあり方であり、真の正義である。

- ① 絵の上手な人と歌の上手な人との能力差は比較できないので、各人の優劣は客観的に数値化された学力差によって決めるべきである。
- ② 小学校の徒競走で足の速い生徒にハンディキャップをつけるのは、競争原理の否定につながり、理不尽である。
- ③ 多数決原理を基本とする民主主義であっても、自分の政策を実現するためには「数の力」だけに頼らずに、少数意見にも耳を傾けるべきである。
- ④ プロのスポーツ選手や人気歌手が時に数億円もの報酬をもらうのは、人間の金銭感覚を麻痺させる異常な事態である。

問4 次のゴルギアスの言葉の中の空欄[17]に入る語として最も適切なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。【SHH】

何ものもあらぬ。あるにしても何ものも知り得ない。たとい知り得るにしても、それを何人も他の人にあきらかにすることはできないであろう。それは事物が[17]ではないためであり、また何人も他の人と同一のものを心に考えぬからである。

- ① 物体 ② 神 ③ 言葉 ④ 魂

問5 ソクラテスの考えた「真の知」についての記述として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[18]【SHH】

- ① 生涯をかけて魂の世話を続けることによって、人間は永遠の魂によって真の知に到達できると考えた。
- ② 知とは本来けっして誤ることのない絶対確実なものであるとすれば、真の知者は神のみであり、われわれ人間は何一つ確実には知らない存在であると考えた。
- ③ 人間の魂は真の知についての記憶を持っているため、それを想起することによって真の知に到達することが出来ると考えた。
- ④ すべての知は相対的なものであるため、絶対的な知は存在せず、弁論によって真偽をあきらかにする以外に方法はないと考えた。

問5 ソクラテスは自分の問答を産婆術(助産術)と呼んだ。それを説明する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[19]【SHH】(2005年センター本試)

- ① 産婆の助けがないと妊婦の出産は困難であり、出産は両者の協同により成功する。ソクラテスも対話相手も無知であるが、問答によってお互いの不足を補いながら探究することにより、真理に到達できる。
- ② 産婆は高齢のため身ごもることはできず、出産を助けることだけができる。ソクラテスは無知であるが、問答によって対話相手の考えを引き出す手助けを学ぶことを通じて、無知から解放されるようになる。
- ③ 産婆は高齢のため出産はできないが、妊婦の状況を見極めて、その赤子を取り上げることができる。ソクラテスは無知であるが、問答によって真偽を吟味しながら、対話相手自らの考えを引き出すことができる。
- ④ 産婆は妊婦の出産までを熟知しており、妊婦に適切な出産法を教えることができる。対話相手は無知であるが、問答によってソクラテスから真理を教授されることにより、真偽を判断することができる。

問6 次の文中の【 A 】【 B 】に入る語として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[20]【SHH】

ソクラテスが前提とするのは、【 A 】が生き方の基盤であること、【 A 】は言論や説明を正しく与えられるかどうかで試されること、そして【 A 】を吟味して生きることがより善き生き方であるという考えである。正義、勇気、節制、敬虔、知恵といった諸徳は善きあり方、つまり徳である限りで一つである。これが「徳の一致」と呼ばれる見解であり、少なくともギリシア人の常識とはかけ離れたものであった。プラトン『プロタゴラス』でプロタゴラスは、それぞれの徳は顔の各部位のようなもので、勇気は他の徳とは異なると主張する。この常識的な見方に対してソクラテスは、勇気も含む全ての徳が「【 A 】」として一つであると論じる。

善く生きることの追究は【 B 】をもたらす。これは単なる学説ではなく、ソクラテスが対話を通じて示した生き方である。それはまた、神への態度と一体である。人間には究極的に徳をはじめとする重要な事柄の【 A 】がない以上、にもかかわらずそれを求め続けることは、人間でありながら神という超越と関わることを意味したからである。それがソクラテスの敬神であった。

納富信留『ギリシア哲学史』

- ① 【 A 】知 , 【 B 】正義
- ② 【 A 】知 , 【 B 】幸福
- ③ 【 A 】魂 , 【 B 】正義
- ④ 【 A 】魂 , 【 B 】幸福

第3問 次の文章を読み、下の問いに答えよ。(配点 20)

プラトン哲学の基本的動因は、ソクラテスの言行の指し示していた意味の究明、とくに問答を通じて倫理的徳目(勇気、節制、美など)を明確に定義しようとした努力の継承・発展であった。ソクラテスの問い、例えば「美とは何か」を満たすべき「まさに美であるもの」が、プラトンによって人間の真の知の対象となり理想となる〔 21 〕として積極的に措定されるようになる。これがイデアである。イデア論は、倫理や価値の領域をこえて、広く自然・世界解釈全般に適用され、存在と生成の問題すべてにわたる統一的な説明原理となってゆく。これと並行して、「何よりも魂をたいせつにせよ」というソクラテスの主張は、「イデアを認識するために魂・精神をできるだけ〔 22 〕の影響から純化せよ」という要請として継承され、魂・精神は永遠不滅のイデアと類縁関係にあつて、本来不死なるものであるという確信となる。イデア界とその認識努力の究極には、学ぶべき最大のものとして、「善のイデア」がある。仮説・前提を廃棄しつつ上方の原理へとさかのぼり、「善のイデア」の直知にまで到達することを目指す、純粹思惟によるイデア界の探究が「ディアレクティケ」と呼ばれ、哲学的営為の最上位におかれる。彼の哲学は、ソクラテスの言行に示唆されていた可能性の究明から出発して、価値と認識と存在とを統一的に把握する一つの〔 23 〕を目ざしたものといえるが、その発展はつねに理想的な国家社会の実現への努力と一体をなしている。理想国家を大胆に描いた『〔 24 〕』や、よりリアルな国制改革を論じた『法律』の二大著作は、政治の書としても、後世に大きな影響を与えている。「プラトン」藤沢 令夫、『世界大百科事典』(平凡社)

問1 文章中の空欄〔 21 〕～〔 24 〕に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。【CG】

〔21〕 ① 存在 ② 現象 ③ 真実在 ④ 表象

〔22〕 ① 言語・記号 ② 哲学・思想 ③ 身体・感覚 ④ 法律・文化

〔23〕 ① 形而上学 ② 幾何学 ③ 生物学 ④ 自然学

〔24〕 ① パイドン ② アテナイ人の国制 ③ 自然学 ④ 国家

問2 次の文が示すプラトンの概念として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。〔25〕【CG】

人間の魂は初め別の世界にあり、そこでイデアをみて、その知識をもっていた。しかし、肉体の内に入ることによってその知識を忘却してしまう。そこで、この世で肉体の感覚を通じてみるもののなかに、魂が以前にみたイデアに類似するものをみだし、以前にもっていた知識をおもいだしてゆく過程。それは、魂の本性に植え付けられている真の知識を魂が回復してゆく過程であり、学習は本来の意味ではすべてがこれである。

① アナムネーシス ② エロース ③ ミメーシス ④ メテケイン

問3 アイデアに関して、プラトンの考え方に合致するものとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[26] 【CG】(2010 年本試験)

- ① アイデアは個物に内在する真の本質であり、感覚ではなく、知性だけがそれを捉えることができる。
- ② アイデアは生成消滅しない真の存在であり、感覚ではなく、知性だけがそれを捉えることができる。
- ③ アイデアは個物に内在する真の本質であり、感覚は知性の指導のもとにそれを捉えることができる。
- ④ アイデアは生成消滅しない真の存在であり、感覚は知性の指導のもとにそれを捉えることができる。

問4 プラトンは、洞窟の比喻を用いて彼の思想を説いた。その比喻の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[27] 【SHH】(2006 年本試験)

- ① 多くの人々は、魂が肉体から解放されるまで、快楽や欲望の束縛から脱することができない。それはちょうど、囚人が洞窟の中に死ぬまで縛りつけられて逃げられないのと似ている。
- ② 多くの人々は、個人的な生活にしか目を向けず、社会的理想を追求しようとはしない。それはちょうど、洞窟の中で生活している人々が、そこでの生活に安住し、洞窟の外に出て理想国家を建設しようとしないうのと似ている。
- ③ 多くの人々は、普遍的な真理など存在せず、相対的にしか真理は語れないとする。それはちょうど、人々がそれぞれの洞窟の中でそれぞれの基準で真偽を判断し、その正否に他人は口を出せないのと似ている。
- ④ 多くの人々は、感覚されたものを実在だと思い込んでいる。それはちょうど、洞窟の壁に向かって繋がれている囚人が、壁に映った背後の事物の影を実物だと思い込んでしまうのと似ている。

問5 魂の三部分の関係に基づいて国家のあり方を説明したプラトンの思想として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[28] 【SHH】(2005 年センター本試)

- ① 一人の王の統治は、知恵を愛する王による統治であっても、つねに独裁制に陥る危険を孕んでいる。それゆえ防衛者階級も生産者階級も知恵・勇気・節制を身につけ、民主的に政治を行う共和制において正義が実現する。
- ② 知恵を愛する者が王になることも、王が知恵を愛するようになることも、いずれも現実的には難しい。知恵を愛する者が、勇気を身につけた防衛者階級と節制を身につけた生産者階級とを統治するとき、正義が実現する。
- ③ 統治者階級は、知恵を身につけ、防衛者階級を支配し、防衛者階級は、勇気を身につけ、生産者階級を支配する。さらに生産者階級が防衛者階級に従い節制を身につけたとき、国家の三部分に調和が生まれ、正義が実現する。
- ④ 知恵を身につけた統治者階級が、防衛者階級に対しては臆病と無謀を避け勇気を身につけるよう習慣づけ、生産者階級に対しては放縦と鈍感を避け節制を身につけるよう習慣づける。このようなときに正義が実現する。

問6 次のアイデア論批判の文中の空欄〔 29 〕に入る最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。【SHH】

「第三の人間」とは、形相論（アイデア論）批判に際して用いられた論証。アリストテレスの注釈家アレクサンドロスは3つの型に分類している（『アリストテレス形而上学注釈』）。その内容は、有名なアリストテレスの論証を例にとると、もし個々の人間（A）のほかに「人間自体」（X）というアイデアがあって、AがXへの類似という関係を有することで存立しているとするならば、AとXの相似関係を保証する、すなわち両者に共通に類似している第三の人間（Y）の存在が要請され、さらにA・Y、X・Yの類似関係についてもその関係を成立させる「人間」の存在が要求されて無限背進が生じる。これは不条理であるとするもの。つまり、第三の人間とは、〔 29 〕のことを指している。

- ①個々の人間と人間のアイデアのアイデア ②人間のアイデアのアイデアのアイデア
③個々の人間のアイデアとアイデアのアイデア ④普遍的なアイデアの人間への類似

問7 次の文章は、プラトンの著作中の人物が、哲学的対話における言葉の価値を、書かれた言葉と対比しつつ述べたものである。この文章の説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。〔30〕【SHH】

書かれた言葉は、あたかも実際に何事かを考えているかのように見える。だが、もし君が、そこで言われている事柄について質問すると、いつでも一つの同じ合図をするだけである。それに、どんな言葉でも、ひとたび書き物にされると、それを理解する人のところであろうと、まったく不適当な人々のところであろうと、転々とめぐり歩く。そして、誤って扱われたり、不当に罵られたりしたときは、書いた本人の助けを必要とする。……これに対し、人が対話の技術を用いながら、ふさわしい相手の魂のなかに、知識とともに植え付ける言葉は、自分自身のみならず、植え付けた人をも助ける力をもつ言葉であり、また、実を結ばぬままに枯れることなく、一つの種を含んでいて、その種からは、また新たな言葉が新たな心のなかに生まれ、かくて、常にその命を不滅に保つことができるのだ。そして、このような言葉を身に付けた人は、人間に可能な限りの最大の幸福を、この言葉の力により勝ちとるのである。（『パイドロス』より）

- ① 書かれた言葉は、多様な読者に対して十分に筆者の考えを伝えることができないが、対話において適切な仕方では語られる言葉は、どのような対話者の魂をも育て、自ら考えることへと導いていく。
- ② 書かれた言葉は、内容を理解できない読者に読まれると、言葉本来の力が活かされずに終わる可能性があるが、対話を通じて育まれる言葉は思考する力となり、それを語る人々を支えるとともに、さらなる対話を導く。
- ③ 書かれた言葉は、文字として明確に表されているので、筆者の考えを正しく伝えるが、対話において語られる言葉は、対話の相手によって変化するので、話者の考えを正確に伝えることはできない。
- ④ 書かれた言葉は、まったく変化しないため、時とともに説得力を失うが、生きた人間同士がかわす対話においては、それぞれの時代の価値観に即した内容が語られるので、説得力ある言葉が常に生み出されていく。

第4問 次の文章を読み下の問いに答えよ。(配点 20)

運動変化する感覚的事物の原因の研究が自然学といわれる。アリストテレスはここに4種の原因をあげた(四因論)。(1) [31] 因——事物が「それ」からできている素材、(2)形相因——事物が「それ」へと形づくられるもので、事物の定義となるもの、(3)始動因——「(それによって) 事物が形成される因となる力、(4) [32] 因——この事物形成の運動が「それ」を目ざしてなされる [32]、がそれである。このうち、(2) (3) (4)は自然物においては一つであるので、結局、[31] と形相によって自然物はなり、[31] の内に形相が自己を実現してゆく生成発展の過程として自然の存在は把握される。[31] はそこで形相を受容しうる能力(デュナミス・可能態)として、終極 [32] に従って把握されるので、終極 [32] (テロス)であるエネルゲイア(現実態)こそが、自然存在の優越する原因であるとされた。これを [32] 論的自然観という。

存在者の一部を対象とする特殊学に対して、存在するすべての事物にとって第一の諸原因を考究する学問は知恵(ソフィアー)、または第一哲学(プロテー・フィロソフィアー)とよばれる。特殊学が特定の存在者について、それが特定の類に属する限りにおいて、必然にもつ諸性質を尋ねるのに対して、それは、存在するすべてのものについて、それらが「ある」といわれる限りにおいて、この「ある」を成り立たせている第一諸原理、諸原因を尋ねる。

こうして、この学問は、特殊なものの根拠にある第一の諸原理を探求する普遍学(存在学)として、第一の最高の学問である。だが、それは同時に、もっとも高貴な存在者、神を取り扱う学問として神学(テオロギケー)でもある。神は第一の存在者であることによって、すべてのものの存在の原因でもあるからである。神は [31] から離れて、永遠不変な観照の内にとどまる自己思惟者(ノエーシス・ノエーセオース)として最高の現実態であり、それ自身は不動でありながら、「愛されるもの」としていっさいのものを動かす「[33]」である。それは、自然界を超える、自然界の根拠としての終極 [32] なのである。こうして、世界は一と多の原理からなる総合的全体として思索され、それぞれの事物がその固有の存在を実現しながら、同時に、神によって根拠づけられ、生かされるものとなった。[34] という名前は、この学問が後の全集編集において占めた位置に由来する。

問1 文章中の空欄 [31] ～ [34] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。【CG】

[31] ① 質料 ② 目的 ③ 手段 ④ 機械

[32] ① 目的 ② 質料 ③ 機械 ④ 手段

[33] ①幻影の覇者 ②裂空の訪問者 ③不動の第一動者 ④天空の覇者

[34] ① 自然学 ② 政治学 ③ 論理学 ④ 形而上学

問2 アリストテレスの人間観として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[35]
【CG】

① 知性人 ② 遊戯人 ③ 象徴を操る動物 ④ ポリス的動物

問3 次のアリストテレスの論理学、三段論法についての記述の空欄【ア】【イ】【ウ】に入る語の組み合わせとして最も適当なものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。[36]【SHH】

命題論理では、

〈材料(肉、タマネギ、ジャガイモ、ニンジン、カレー粉)があればカレーができる〉
という知識を、たとえば以下のように表す。

(〈肉がある〉 $\wedge$ 〈タマネギがある〉 $\wedge$ 〈ジャガイモがある〉 $\wedge$ 〈ニンジンがある〉 $\wedge$ 〈カレー粉がある〉) $\Rightarrow$ 〈カレーができる〉

上で、〈 〉で囲まれた文がおのおの命題を表し、“ $\wedge$ ”や“ $\Rightarrow$ ”が文の間の論理的関係を表す論理記号である。“ $\sim \wedge \dots$ ”は〈 $\sim$ かつ $\dots$ 〉と読み、“ $\sim \Rightarrow \dots$ ”は〈 $\sim$ ならば $\dots$ 〉と読む。

上の規則が知識ベースに蓄えられていて、さらに〈肉がある〉〈タマネギがある〉〈ジャガイモがある〉〈ニンジンがある〉〈カレー粉がある〉という事実が知識ベースに書かれていれば、〈カレーができる〉ということが推論できる。

これは、三段論法と呼ばれる以下の推論規則

前提 1 【ア】

前提 2 【イ】

結論 【ウ】

を用いた結論の導出であり、いつでも正しい結論が得られることが論理的に保証されている。

- | | | | |
|---|-----------------|-----------------|-----------------|
| ① | 【ア】 A である | 【イ】 B である | 【ウ】 A ならば B である |
| ② | 【ア】 A ならば B である | 【イ】 B である | 【ウ】 A である |
| ③ | 【ア】 B である | 【イ】 A ならば B である | 【ウ】 A である |
| ④ | 【ア】 A ならば B である | 【イ】 A である | 【ウ】 B である |

問4 イデア論を批判したアリストテレスについての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[37]【SHH】(2015 年本試)

- ① 善のイデアを追究する生き方を理想としたプラトンを批判して、善は人によって異なるので、各自が自分にとっての善を追究すべきだと説いた。
- ② 理性で捉えられるイデアを事物の原型としたプラトンを批判して、事物が何であるかを説明する唯一の原理は、事物を構成する質料であるとした。
- ③ 永遠不変のイデアが存在するとしたプラトンを批判して、すべては現実態から可能態へと発展するのであり、同一であり続けるものはないと述べた。
- ④ 個々の事物を離れて存在するイデアを真の知の対象としたプラトンを批判して、個々の具体的な事物こそ探究の対象とすべきだと主張した。

問5 アリストテレスの「調整的正義（矯正的正義）」の説明として最も適当なものを、次の

①～④のうちから一つ選べ。[38] 【SHH】（2009 年本試験）

- ① 各人の業績を精査し、それぞれの成果に応じて報酬を配分すること
- ② 加害者を裁いて罰を与え、被害者に補償を与えて公平にすること
- ③ 知性的徳を備えた人が習性的徳を備え、完全に正しい人になること
- ④ 法的秩序を保ち、人間として正しい行為をする状態に市民を導くこと

問6 アリストテレスが用いている中庸の例の記述として最も適当なものを、次の①～④の

うちから一つ選べ。[39] 【SHH】

- ① 恐れるべきものとそうでないものを正しく判断できるように知的訓練を積むことで、
勇気のある人になる。
- ② 金銭や財に関して、必要以上に惜しんだり浪費したりしないよう習慣づけることで、お
おらかな人になる。
- ③ 神の知をもっていないと自覚することで、最大の無知から解放され、人間にふさわしい
知恵を得ることができる。
- ④ 極端な快楽と極端な禁欲を避けながら、静かな修道生活を送ることで、心の平安を得る
ことができる。

問7 アリストテレスによる「悲劇」を定義した次の文章を読み、その趣旨と合致しない

ものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[40] 【SHH】

悲劇とは、一定の大きさを備え完結した高貴な行為、の再現であり、快い効果を与える言葉
を使用し、しかも作品の部分部分によってそれぞれの媒体を別々に用い、叙述によってではな
く行為する人物たちによって行われ、あわれみとおそれを通じて、そのような感情の浄化（カ
タルシス）を達成するものである。
（アリストテレス『詩学』）

- ① 普通の人間が、卑劣さや邪悪さにゆえにではなく、何らかのあやまちのゆえに不幸にな
るような感情を揺さぶるストーリーが悲劇として優れている。
- ② 悪い人が不幸から幸福に転じるストーリーは、観客の納得を得られないとともに、人情
に訴えるものがなく悲劇に向かない。
- ③ よい人が幸福から不幸に転じるストーリーは、悲しみの共感は得られるものの、忌まわ
しいものと感じられて評判が悪くなるから避けた方がよい。
- ④ すぐれた悲劇のストーリーは、観客におそれとあわれみを感じさせないように配慮し
ながら、人間の不幸や幸福いずれにも共感できるようなものである。

第5問 次の文章を読み下の問いに答えよ。(配点 20)

前4世紀、マケドニアのアレクサンドロス大王の東方遠征でギリシャ世界の影響がエジプト、ペルシャからインドにおよぶと、ポリス社会の枠を超えた多角的な交流により、ヘレニズム哲学が生まれた。ギリシャの哲学はやがてローマ世界に導入され、[41] 語にも翻訳されて西洋哲学の基盤として発展する。

ヘレニズム諸国やローマ帝国という巨大国家が出現すると、哲学の関心はポリスの一員として生きる [42] 的場面から離れて、個人の内面に幸福を求める思想へと向かう。そこではエピクロス派、ストア派、懐疑派という学派がたがいに論争し、それぞれのモデルにならって人々は生き方を選択した。ローマ時代にはキリスト教も広まり、哲学においても宗教性や精神性が強まって、超越者を求める哲学の代表として新プラトン主義が登場する。

ピュロンがはじめた懐疑派は、どんな学説や信念にもそれに対立する見方があるとして、[43] 的な判断を保留して(エポケー)、心の平静にいたる生き方を説いた。常に疑うことで [43] を避けながら探究をつづけるこの立場は、デカルトやヒュームなど近代の哲学者たちに大きな影響をおよぼした。

プロティノスはプラトンのイデア論を新たに解釈して、新プラトン主義とよばれる哲学体系を築いた。プロティノスによると、プラトンが「善のイデア」とよんだものは、存在を超えた「一者(ト・ヘン)」であり、そこが万物と世界が発出(流出)する根源であるという。私たちの魂は知性界と感覚界にまたがる存在であり、知性を純化することで故郷である一者へと還帰し、究極的に [44] を目指すとした。その神秘主義的な哲学は、アウグスティヌスなどのキリスト教哲学に大きな影響を与えた。

問1 文章中の空欄 [41] ～ [44] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。【CG】

[41] ① アラム ② フェニキア ③ ヘブライ ④ ラテン

[42] ① 公共 ② 習慣 ③ 法律 ④ 自然

[43] ① 個人 ② 共通 ③ 普遍 ④ 独断

[44] ①一者からの離反 ②一者との合一 ③太陽の認識 ④太陽への信仰

問2 アパテイアという語の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。
[45] 【CG】

- ① 根拠のないあらゆるドクサを排除しようという心
- ② 外界からわずらわされない、激しい情熱や欲望から自由な心
- ③ 何ものにも煩わされない自己充足の境地
- ④ 強い克己心による超然とした無感動の境地

問3 ストア派の人々が説いた「自然に従って生きよ」とは何を意味するのか。最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[46]【SHH】(2010年本試験)

- ① 文明化された都市においては理性的な判断を惑わすものが多いため、自然の中で魂の平静を求めて生きよ、という意味
- ② 感情に左右されやすい人間の理性を離れ、自然を貫く理法に従うことにより、心の平安を得て生きよ、という意味
- ③ 人間の理性を正しく働かせ、自然を貫く理法と一致することで、心を乱されることなく生きよ、という意味
- ④ 人間の理性を頼みとして努力をするのではなく、自然が与えるもので満足することを覚えよ、という意味

問4 エピクロスの倫理思想の記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[47]【SHH】

- ① 美のほとんどが便宜・効用という観念から生まれるのだから、快樂や苦痛は、美や醜の観念に必然的に伴うだけでなく、美や醜の本質をなす。
- ② いかなる快樂をも貪る人は放埒だし、あらゆる快樂を遠ざける人は逆に無感覚な人になる。私たちは、双方の中庸である節制を目指すべきである。
- ③ 快樂や苦痛は、その強さ、持続性、確実性、遠近性などと、それが及ぶ人々の数を考慮に入れることによって、その総計を計算することができる。
- ④ 私たちが人生の目的とすべき快樂は、放蕩者の快樂でも性的な享樂でもなく、身体に苦痛のないことと、魂に動揺のないことにほかならない。

問5 死に対するエピクロスの考え方の記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[48]【SHH】(1999年本試験)

- ① 死なんてものは、言ってみりゃ暖簾をくぐるようなものだから、ひょいとくぐって、向こう側の人にあいさつすればいいだけのことじゃないか。
- ② 人間、生きている間に死ぬなんてことはないし、死んでしまえば空中のチリみたいなものさ。何も考えられなくなるだけの話じゃないか。
- ③ 死にたくないなんて、ずうずうしいことを言っちゃいけない。皆死なくなったら、人があふれて地べたが重くてかわいそうじゃないか。
- ④ 死に神ってのもなかなか気さくでいいやつだというのに、皆から嫌われてかわいそうじゃないか。この際仲よくしてやったらどうだい。

問6 次の文の著者として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[49]【SHH】

人間は誰もが理性に与っていて、それゆえすべての人間は神を父としているのであるから、万人は互いに人類という一つの家族の中の兄弟なのである。また、自然本性にもとづいて、すべての人間が生まれながらにして同じ尊厳と同じ権利を持つのだとすれば、同様に自然本性にもとづく倫理法則、つまり自然法のみが、万民法・国際法を含めた法のための、民族を超えて万人に妥当する普遍的基礎となる正当性を主張することができるのである。

- ① エピクテトス ② キケロ ③ マルクス・アウレリウス ④ ディオゲネス

問題は次のページに続きます。

問7 次の文章は、人生の短さを論じたストア派の思想家セネカが今という時の価値について述べたものである。その内容の説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[50] (2018年追試験)

ところで、自分には予見の能力があると言って自慢する者たちの判断ほど軽薄なものがあり得ようか。人は、より善く生きようとして、なおさらせわしなく何かに忙殺される。…人は、これを、次にはあれを、と考えをめぐらせ、遠い将来のことにまで思いを馳(は)せる。ところが、この先延ばしこそ生の最大の浪費なのである。先延ばしは、先々のことを約束することで、次の日が来るごとに、その一日を奪い去り、今という時を奪い去る。生きることについての最大の障害は期待をもつこと、つまり、明日という時に依存し、今日という時を失うことである。君は運命の手中にあるものをあれこれ計画し、自分の手中にあるものを喪失している。君はどこを見つめているのか。どこを目指そうというのであろう。来るべき未来のものは不確実さのなかにある。直ちに生きよ。

(『生の短さについて』より)

- ① 人間は、今日できることは明日でもできると考え、怠惰な毎日を過ごしがちであるが、それは時間の浪費につながる愚かな行為であるから、将来の計画をしっかりと立てたうえで、今を大切に生きなければならない。
- ② 人間は、善き生のために未来のことを考え、様々な計画を立てるあまり、この今という時の価値を見失いがちであるが、自分が本来は手にしている今という時を真剣に生きることが大切である。
- ③ 人間にとって、目の前の事柄に追われ、多忙な毎日を送ることは、長期的な視野で人生を考える時間をなくすことであるから、目の前の事柄ではなく、遠い将来に目を向けて人生の計画を練ることを優先すべきである。
- ④ 人間にとって、未来の運命は完全には予測できないが、自分が手にしてきた過去の経験から未来を推測することはできるのだから、善き生のために今という時をいかに過ごすべきかを真剣に考える必要がある。

問題は以上です。